

# 2022年 “なじよだね” 新春特別版

編集委員、今年も思いのままに語る

## 『私の柏崎の夢』

あけましておめでとうございます。

(株) do-asist 千徳です。

昨年は、新型コロナウイルス対策に追われた1年になりました。今年は、皆さん健康で、少しずつですが、活動範囲が広がる年になって欲しいと思います。

福島県から柏崎市に越して来て、今年で34年になり、孫も6人になりました。子供達が安心して暮らせる柏崎。いろんな事にチャレンジできる柏崎。帰って来たい柏崎。

(株) do-asist うたげ堂は、音楽を通して心にビタミンを、です。いろいろなジャンルのアーティストさんを紹介して、生の演奏ならではの感動を感じてもらいたいと思います。

今年も宜しくお願い致します。

副編集委員長・(株) do-asist 千徳裕子

## 『柏崎の夢・希望・未来』

新年あけましておめでとうございます。

今年は壮大なテーマで、新年号『なじよだね』が始まります。柏崎の夢や希望を描き、未来を想像する素晴らしい企画です。

しかし企画が大きなテーマ過ぎて、私は想像力の限界です。中々ペンが進まず焦りを感じていましたが、編集委員として実際にパワフルな柏崎の経営者の方々にお会いする機会を頂いていることに気づきました。貴重な時間に快く取材をして頂き、地元愛に溢れるエピソードやバイタリティー溢れるパワーに感動して、私が元気を頂いています。

やはり、人間力が柏崎に活気をもたらす気がします。魅力ある人の周りに人が集まると、アイデアやパワーが生まれ新しい波を作ります。そして、人に会いたくなる、繋がりたいかなと思います。柏崎の未来は、一人一人の気持ちが動かすのではないのでしょうか？

年頭屋茶舗 増田恵子

## 『未来への希望』

おいしいご飯食べに行きたい。休みの日はショッピングを楽しみたい。スポーツやレジャーを楽しみ、習い事もチャレンジしたい。ここ柏崎には、こんな普通のこと自由なく楽しむことを選択肢が豊富な地域になって欲しいですね。これからを支えていく若者世代が暮らしやすい魅力あふれる環境にならないと。現状は厳しいですが、ここ柏崎が色々な事で取り残されないようにすることが大事なことです。新しい産業や就業機会を創り、持続的な経済活動を実現しながら進んで行ければ言うことないのですが、これが相当難しい。ITの進歩によって場所が必ずしも重要でなくなり、どこにいても情報を入手し、買い物も、仕事も出来るようになりました。ここ柏崎にこだわること自体が古い考えなのかも知れないですが「希望にみちあふれ、住んでよかった柏崎」と言えるよう、私自身も微力を尽くしながら、各関係機関の奮闘に期待しています。

アザミデザイン 竹田豊和

## 『一座建立』

先日、あるセミナーの中で「一座建立」（いちざこんりゅう）という言葉に出会いました。これは、茶道で大切にされている精神で、茶会に招いた主催者と招かれた方たちが心を通わせ、気持ちの良い一体感が生まれる状態のことを表しています。

私には茶道の経験がありませんが、身近な例で言えば、飲み会のような場面であっても、参加されている皆さんと気持ちの良い一体感を感じる場面はあると思います。

近年、さまざまな環境の変化により、人間の関係性も少しずつ希薄になってきているように感じます。この「なじよだね」が会員の皆さんのことを知っていただく良い機会となれるように。そして、一座建立、心が通い、気持ちの良い一体感で包まれることを願って、今年も引き続き取り組んでいきたいと思っています。皆様、今年もよろしくお願い致します。

編集委員長・(株)高忠商店 高橋宏忠

## 『柏崎の夢・希望・未来』

私は二歳の時に、母親の仕事の関係で柏崎市に引っ越してきました。当時住んでいました諏訪町には市役所や公園、町内で営んでるお店などはありましたが大きな商業施設等があったのは記憶にないです。でも、あれから50年が経ち、住宅は多く建ち並び、大型商業施設も建ち並びようになり、道路状況もバイパスが出来るなど少しずつ柏崎の街並みが変わりつつあります。しかし、今、柏崎は人口減少により若者がこのふるさとを離れつつあります。私の希望はもっと大型施設（ショッピングモール）、遊園地、娯楽施設等誘致。若者が集まりそうな街並みを作れば人口減少にならないのではないのでしょうか？これで道路状況のバイパスも完成すれば市外や



県外からも集客が増えるのではないのでしょうか？これで柏崎の経済も変われば『未来の柏崎』も変わるでしょう。

(株)町田設備工業 代表取締役 町田 浩



### 『柏崎の未来』

この冬、海辺のキッチン倶楽部もくでは、念願のペレットストーブを入れました。地球に優しい生活・脱石油を目指してです。燃料のペレットは、地元の廃材で作られたものです。蔵カフェに合っていて、ストーブの窓から見える炎は、心を落ち着かせます。温かい気持ちにさせてくれます。環境云々より、豊かな時間を「もく」に届けてくれています。

11月は、毎年柏崎市が主催する「地産地消フェア」に参加しています。柏崎の魚は「鯛」が有名ですが、この時期は「鮭」が揚がります。私は歩いて笠島漁港まで行き、漁師さんから大きな鮭を仕入れています。隣町の青海川では、鮭の増殖事業をしています。柏崎の海岸は、水も景色もきれいなので、多くの方が散歩やドライブ、夏には海水浴にも来てくれています。

何気ない毎日ですが、ちょっと環境に優しい生活をして、近くにある美味しい物を食べて、美しい景色を見る。未来もこんな幸せが続く柏崎であってほしいです。

海辺のキッチン倶楽部 もく 黒崎朝子

### 『柏崎の夢・希望・未来』

柏崎は、海あり、山あり、自然豊かで四季を感じることができます。いいところですね。実は、それってどこにでもあるんじゃないでしょうか。

一流の観光地に欠かせないのはキレイなトイレです。一流のホテルに欠かせないのもキレイなトイレです。そうです柏崎を一流の地方都市にするにはキレイなトイレが必要です。地方はまだまだモータリゼーション真っ盛り。車で出かけると、そのうち人はトイレが必要になります。近い将来、ドローンで出かけるにしてもトイレは必要です。「自社の強み、特徴は何ですか？」よく問われますね。なかなか答えられないのが実情ではないでしょうか。今後、「柏崎の強み、特徴は何ですか？」と問われたら「トイレです！」。強みにしましょう。差別化できます。

市外の人からは、お出かけ先として「途中でトイレのキレイな柏崎に寄ろう」とか、「トイレがキレイだから柏崎集合ね」とか、「トイレがキレイだから柏崎で食事にしよう」とか、選択順位が一番になります。人の流入が増えれば楽しいことは起こります。素敵なトイレさえあれば何とでもなります。

そこには人が集まり、都市ができ、柏崎がさらに繁栄するでしょう。人はトイレに集う。全ての道はトイレに通ず。

素敵なトイレがたくさんあれば未来の柏崎は明るいのです。じゃあ。

衛文盛堂印刷所 堀 秀樹

### 『柏崎の夢・希望・未来』

新年明けましておめでとうございます。

予期せぬ新型コロナウイルスの発生に振り回されて2年もの月日が経ちました。今は制限も緩和され普通の生活に戻りつつも新たな変異株の出現に、まだまだ油断はできないですね。

今年こそ、えんま市、ぎおん祭り、花火大会等開催でき、活気ある町になりますように。しかし、コロナ禍でなくても人間関係が疎遠になりつつある今日、こういうイベントの日だけではなく、柏崎って居心地いいナーと多くの若者から感じてもらう事が人口も増え元気になると思います。批判ばかりせず良い所、嬉しいと思えることを増やす等、その為には、私達が楽しく暮らしていく姿も大切だと思います。

今年も元気で活動していきたいです。

卓球も楽しんでいる私、目標は、伊藤美誠選手になった気分、[チキータ] 習得!!?

旅館 広川屋 広川久美子

### 『柏崎にあったら良いもの』

長引くコロナ禍の影響で、通っているスポーツクラブのスタジオプログラムが中止になりました。

今後どうしようか考えている時、柏崎に新しいスポーツクラブができましたが、そこはジムしかなく、ジムもスタジオもやりたい私にとっては、そちらに移るという選択肢はありませんでした。

そこで、もう一つの選択肢、現在通っているスポーツクラブのプールに入る事にしました。水泳を始めて三ヶ月、元々スタジオレッスンで体を動かす楽しさを知ったので、プールに入っているだけでも何か物足りない…

やっぱりスタジオで思いっきり動いて汗をかきたい!!

市内には同じスタジオプログラムをやっている所はありません。市外に行けばありますが、往復の時間を考えると通う気にはなれない。

そこで今、柏崎にあったら良いと思うものは、器具が充実したジム、広いスタジオ、そしてせっかく始めた水泳も続けられるようにプールもある、誰でも通える大型のスポーツクラブです。

そして柏崎がフィットネスを通して元気な街になっていく欲しいというのが、元運動嫌いの思いです。

（笑）いろいろはや製館所 小田剛志

### 『柏崎の夢・希望・未来』

柏崎の地には42キロの海岸線に代表される海の魅力、米山山頂からの眺望に代表される山の魅力もあり、さらには日本の大きな課題でもありますエネルギー政策について市民単位で議論を行うなどエネルギーのまちとしての魅力を持っています。私はそんな柏崎がもっと有名になり、多くの人が訪れたいまちになってほしいと強く思っています。

まずは上の3つの魅力を再度分析し磨き上げるとともに、「再チャレンジができるまち」、「女性が輝けるまち」といった新たなキャッチフレーズをどんどん作っていき、最終的にはその魅力を日本全国に発信することが重要だと思います。

そのためには、市民一人ひとりが当事者意識を持ってまちの未来を考え、自分たちの住む柏崎をもっと好きになり、そして行動していくことが必要です。ちなみに私は昨年11月から柏崎のカツ丼を全て食べ尽くして発信していく企画をインスタグラム（#カツ丼まじしるべ）で勝手に始めました（笑）今後も柏崎市民の一人として勇気をもって行動していきたいです。本年もよろしく願いいたします。

間島行政書士事務所 間島博英